

分収林現地視察について

同窓会会報

第73号

平成14年7月24日
発行所 茨城県東茨城郡
内原町鯉淵5965
鯉淵学園同窓会
TEL 029-259-2811
FAX 029-259-2811
振替口座 宇都宮3-1632 番
印刷所 印刷所
印刷 印刷所

日時：平成十四年五月十八日（土） 十時〇〇分～十五時〇〇分
場所：茨城県日立市小木津町大字小木津国有林四一九四番地
（高萩 事業区二〇四 林班 は 小班内）

I 分収林の概要

- 一、分収林実面積 三・三〇ヘクタール
- 二、契約期間 昭和六十年（一九八五年）
～至昭和百二十年（二〇四五年） 六十年個年
- 三、植栽樹種及び本数 スギ二、四〇〇本 ヒノキ七、五三〇本
- 四、伐採の時期及び方法 昭和百二十年（二〇四五年）一回
- 五、収益分収の割合 国一〇〇分の三〇 造林者一〇〇分の七〇

II 実施経過と今後の活用について

分収林事業は、昭和五十八年十一月五日開催された第十六回同窓会大会において、鯉淵創立四十周年記念事業として決定した。育林事業を行うことにより、農業と林業とのかわり、農村指導者としての林業への理解を深め、学術教育の充実を期待し、また、伐採し収益を生ずる時代には学園の教育資金として、学園経営に貢献することができるものとして、この事業を同窓会として実施したものである。

実施に当たっては、林野庁の「ふれあいの森づくり」事業として国有林の提供をうけ、昭和六十年四月二十二日分収造林契約を林野庁東京営林局長と同窓会会長が締結した。

一、平成十四年度管理運営について

- (1) 除・間伐作業と国庫補助金申請助成について
- ① 除・間伐作業と業者選定について：高萩愛林組合（12/22）、三



- (2) 現地視察に当たって：A I Uレクリエーション傷害保険付保。
- 山工業棟（1/24）、益子駅（14期）の三業者と現地立会いのうえ見積書を徴収し、2/8三役会議で益子氏に決定、二月下旬除・間伐を完了した。
- ② 国庫補助金申請と助成について
- 了、除・間伐現地確認調査
- 日 時 三月七日 十三時三〇分
- 立会人 河上茨城県林業指導所長、県、日立市職員各一名、勝間田日立市林業組合理事長、古川事務員、高橋同窓会長、倉重副会長、事務局
- 調査内容 現地確認（除伐率実測、写真撮影、除伐状況コメント）
- イ、補助金申請交付 3/22日立市森林組合に補助金申請委託、5/10決定、交付。
- ウ、補助金 ￥二二八、三三三
（内訳 共済保険料 ￥五、六八七二 組合手数料一〇
% ￥二、八三三 送金手数料 ￥四二〇
差引 ￥六二、二〇八）

学園の新しい改革に向けて

学園長 宍戸弘明

毎年七月に農水省が主催して、農業大
学校等の運営についての研究会が開かれ
ています。それに出席した折り、島根農
業大学の校長、菅野繁樹先生(学園20
期卒)に今年もお会いできました。菅野
先生の学校でも県内のいろいろな状況か
ら難しい問題を抱えていらっしゃるよう
ですが、このことは島根に限らず各道府
県の農業大学校も共通していて、それぞ
れの学校で何らかの改革に迫られている
ようです。

こうしたことは決して対岸の火事では
なく、鯉淵学園にも同様で、いやもっと
深刻な問題です。具体的には入学者数の
減少です。十四年度は八八名(編入学者
を含めると九六名)と昨年こそ上回った
ものの、五年連続して定員(一一〇名)
割れの状況です。せめて学園経営を安定
させる上で一〇〇名の入学者を確保した
かったのですが。

急激な少子化が最大の原因だとしても
だから仕方がないというわけにはいきま
せん。これまでも打てる手は打ってきた
積もりですが、改めて外から(高校生や
その保護者というてよいでしょう)も分
かりやすく、また評価されるような改革
を目指して、この三月に学園改革推進本
部(本部長・学園長、事務局長・土崎教
授)を設けて急ピッチで作業を進めてい
ます。当面の狙いは全職員の意識改革を
基盤にして学生募集活動の強化と教育内
容の見直しです。

学生募集については、昨年導入したオ
ーブンキャンパス、遠隔地(鹿児島)入
学試験などをさらにきめ細かくするほか
今年度は同窓会の協力を得ながらJAへ
の働きかけを強め、また遠隔地の高校訪
問を実施していきます。特に前者のJA
推薦制度は卒業生の進路にも関係します
ので、同窓会の皆様にはいろいろアドバ
イスをお願いいたします。

教育内容の見直しに緊急を要するのが、
生活栄養科学科の管理栄養士受験対策の
関連です。今年度定員をオーバーする入
学者があった大きな理由は管理栄養士の
資格取得と思われ、持続的な定員確保に
その対策は不可欠と考えています。一方
四六名という近年になく低調だった農業
経営科学科では卒業までに取得させる農
業技術の深さと広さをどう調和させ、授
業、実習を組み立て直すかがポイントで
す。

この小文では意を尽くしきれませんが、
いづれ皆様とお目にかかれる機会には詳
しくお話しできると思います。

また、こうした学園内の動きと機を合
わせて学園運営担当者が変わりました。
今年度四月から教務部長は浦井教授、学
生生活部長は川井教授、農場責任者は園
芸農場が小沼助教授、畜産農場は山本助
教授そして事務部長は清水(前事務次
長)がそれぞれ担当していただきます。よ
ろしくお願いいたします。

鯉淵学園優先入学(同窓生推薦)への

志願者ご推薦のお願い

学園長 宍戸弘明
同窓会会長 高橋隆三

時下ますますご清栄の段、お慶び申し
上げます。

日頃より、母校鯉淵学園に対し、特段
のご支援を賜り、まことにありがとうございます。

さて、ご承知のように十八才人口の減
少に伴い、各専門学校、短大、大学は志
願者の減少に悩まされており、定員割れ
の学校が年々増加しております。本学園
でも近年定員割れが続き、一学年一二〇
名定員の $\frac{2}{3}$ の約八〇名を確保するのがや
つとという状態となっております。平成十四
年度新入生も八八名でした。特に農業経
営科学科は八〇名定員のところ四六名の
入学と、三年制度となった昭和四十五年
以降最低の入学者数となりました。また、
今後農水省からの補助金及びJAなどが
らの寄付金はますます減額されると見込
まれ、学園経営の面で、困難な状況に陥
りかねない事態となっております。この
ような中、本学園にとって入学者数の増
加が喫緊の課題となっております。

現在、本学園が行っている教育は、
「鯉淵学園の特色」にありますように、
二十一世紀の日本農業と国民栄養を支え
る人材を養成することを大きな目標とし

た独自性の高い教育で、その教育内容に
は自信を持っております。どうか皆様方
の関係者各位に本学園の特色をお話し
いただき、鯉淵学園への入学をお勧めい
ただきたくお願い申し上げます。

つきましては、本学園の優先入学制度
を積極的に活用していただき、本学園へ
の志願者をご推薦いただきたくお願い申
し上げます。なにとぞ宜しくお願い申し
上げます。

末尾になりましたが、皆様のますます
のご健勝と今後のご発展をお祈り申し上
げます。

〈優先入学願書受付〉

平成十四年十月一日

十五年三月二十六日

(当日消印有効)

〈提出書類〉

推薦書など「優先入学要項」で指定
する書類

〈選考方法〉

提出書類に基づく総合評価

初代・学園長

小出満二先生の胸像 図書館に！

昭和三十年五月、先生の没後、貞子夫人が高村豊周（たかむら とよちか）氏に依頼して作られたものである。完成は翌三十一年で在ったと記憶している。高村氏（一八九〇―一九七二）は鑄金家・人間国宝（重要無形文化財保持者）、高村光雲の子、光太郎の弟、そして鯉淵学園・植物病理学教授 藤岡（旧姓・高村）

孟彦先生（在任一九四八―一九五七）の兄で、鯉淵学園に文化講演でこ来講いただいたこともある。胸像は数枚の写真に基づきが、取り分け、恩師であり、実質の仲人でもあられた新渡戸稲造（一八六二―一九三三）在りし日のポーズに通ずる、軽く握られた右手をそとと右頬に当てた温顔溢れる和服姿をイメージして、一度出来上がった胸像の手直しをお願い

した経緯もあった。

貞子夫人から、保管のご相談は受けて居たが、出来るだけ長く、お手元にと思いう気持ちもあり、その内に伸び伸びになつて、機を逸してしまった。昨秋、改めてご遺族からお話しがあり、最も先生と由緒の深いわが鯉淵学園でお預かりする運びとなった。

先生のご遺徳を偲びながら、大切にそしてしっかりと保管をして参りたい。



同窓会名簿発刊に向けての進捗状況

平成九年七月に同窓会会員名簿が発刊され五年が経過し、新しい会員名簿発刊に向けて作業を進めております。その進捗状況を簡単に報告致します。

卒業生約六、〇〇〇名の会員に調査カードを送付致しました。総卒業生数は六、五八五名ですから、住所判明率は約九〇％です。一方、調査カード回答者数は一、

八一〇名でその率は三〇％。また、回答者の中で名簿希望冊数は約五〇％の九一〇冊です。今年の十二月初旬くらいには希望会員にお届けできるようにと考えております。下記の通り住所を把握していない会員がまだ一四二名います。御存知の会員がいれば、事務局まで一報頂きたく宜しくお願いします。

【旧職員】

（ ）内は旧姓名

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| 大出 節子 | 高木（八文字）義江 | 昭38【本科18】 |
| 大木 佐次右衛門 | 高橋 武夫 | 菅 原 正 志 |
| 加藤 きみえ | 外 山 昌 作 | 昭38【通1】 |
| 久納 佑 学 | 宮 沢 正 男 | 赤 井 信 義 |
| 熊谷 徹 哉 | 昭30【研究科10】 | 坂 元 信 夫 |
| 古賀 康 夫 | 昭30【実科10】 | 昭39【本科19】 |
| 佐藤 孝 孝 | 廣 瀬 祐 一 | 小 林 良 平 |
| 白倉 徳 明 | 昭32【本科12】 | 昭40【本科20】 |
| 富永 信 信 | 岩 崎 豪 | 池田（佐藤）重道 |
| 結城 淳 | 中 島 友 市 | 川久保 正 一 |
| 昭21【本科1】 | 昭33【本科13】 | 篠 原 さ だ 子 |
| 本 庄 英 一 | 甲 斐 敬 三 | 中田（鈴木）勝子 |
| 昭22【本科2】 | 昭34【本科14】 | 昭40【通2】 |
| 土井 三千一 | 石 橋 精 也 | 井 上 宗 男 |
| 昭23【本科3】 | 大 槻 行 弘 | 高 城 武 男 |
| 枝（福永）義郎 | 高 橋 勢 一 | 中 澤 和 夫 |
| 田 村 稔 | 柳 沢 祐 夫 | 昭42【通3】 |
| 昭25【実科5】 | 昭34【選科14】 | 佐 藤 辰 己 |
| 大山（徳見）正伸 | 帶 川 伊 千 広 | 島 田 金 博 |
| 昭27【実科7】 | 昭35【本科15】 | 田 辺 金 吉 |
| 梶 谷 勝 正 | 志 水 勝 | 三 浦 清 光 |
| 昭28【本科8】 | 下 藪 秋 男 | 山 口 直 光 |
| 小池 喜 張 | 白 石 幸 雄 | 昭44【本科24】 |
| 佐藤 明 道 | 神 田 幸 雄 | 山 田 淳 一 |
| 鈴 紀 幹 彦 | 谷 口 保 男 | 太 田 淳 一 |
| 羽島（阿世知）一雄 | 近 本 恭 記 | 木 村 安 弘 |
| 昭28【研究科8】 | 山 下 益 弘 | 隅 村 泰 則 |
| 井 上 登 | 山 田（山谷）知幸 | 澤 畑 政 行 |
| 昭30【本科10】 | 山 田 正 直 | 昭44【通4】 |
| 大滝 恒 武 | 青 木 征 司 | 荒 川 祐 一 |
| 大津 一 己 | 金 子 貞 三 | 川 尻 博 道 |
| | | 竹 下 忠 紀 |
| | | 富 永 平 八 |
| | | 福 井 一 宗 |
| | | 渡 辺 実 |

学園の近況報告

ご挨拶

教務部長 涌井義郎

今春四月に、教務部長を拝命しました。同窓会の皆様により、ご挨拶を申し上げますとともに、鯉淵学園の近況をお知らせします。

私儀、新潟県出身で、31期卒業生です。昭和五十二年以来、鯉淵学園の職員として二十四年になります。教科担当は野菜園芸と有機農業です。この間、全国から集う学生たちの、三ないし四年間の驚くほどの成長ぶりを目撃してきました。また卒業生の、地に足のついた様々な活躍にも喜びを感じつつ仕事をしております。

学科が六七名、生活栄養科が六名、計九三名でした。就職戦線は厳しく、この時点での進路決定率は八五%でした。農業自営者（農業法人を含む）は二〇名、JA就職は二名、その他多くが民間企業に就職しています。栄養士としての就職は福祉施設が多いのが特徴でした。

四月十日の入学式では、八八名の新入学生を迎えました。内訳は、農業経営科学科四六名、生活栄養科学科四二名でした。生活科は定員四〇名を超える快挙でしたが、農業科が定員八〇名の半数に迫るといふ深刻な事態を露呈しました。この他に、三年への編入生が八名ありました。四学年の定員は四八〇名ですが、平成十四年度の学生数は二二六名でスタートしています。一五〇名の定員割れが実情です。

学生募集には優先的に予算を組み、諸々の対策を講じていますが、なにより同窓生のみなさんの紹介・個別推薦がもっとも期待されます。同窓生のみなさんからご推薦をいただく場合は「優先入学制度」があります。ご子弟やお孫さんの入学も増えてきております。更なるお力添えをよろしくお願いいたします。

学生数の動向、入学生推薦のお願い

平成十三年度の卒業式が三月十五日にとり行われました。卒業生は農業経営科

昭45【本科25】	江口(村上)幸江	昭55【本科43】	嘉手刈 宗政	平4【本科46】	伊藤 浩之
	萩原(井坂) 一郎	昭56【本科35】	倉本 和幸		
	増子(吉田) 容子	平 木 拳 男	西山 朋宏		
昭46【本科26】	伊藤 喜代次	昭57【専攻科36】	平5【本科47】		
	中崎 正人	原 口 泰三郎	運 天 克 也		
	藤崎(佐藤) 由美	昭58【本科37】	太田(飯塚) 真弓		
昭46【通5】	岩井 敏 明	大 城 一 朋	木 佐 加代子		
	齊 藤 富 夫	田嶋(沼畑) 幸枝	椎 名 靖 子		
	平 山 留 吉	昭59【本科38】	羽 深 崇 雄		
昭48【本科27】	西岡(植田) よし江	石 原 仁 子	眞 淵 博 行		
	久池 正 充	友 利 浩	平 6【本科48】		
	水 越 勉	宮 平 浩	相 島 直 樹		
昭49【本科28】	岩切 幸 子	昭61【本科40】	板 根 篤		
	独 古 稔	金 沢 潤	高 橋 広 江		
	浜 田 英 政	小 関 和 一	武 藤 こずえ		
昭51【本科20】	稲 生 雅 尚	昭62【本科41】	目 崎 貴 行		
	昭52【本科31】	松 田 豊	平 7【本科49】		
	葦 原 元 春	昭62【選科41】	大 友 美 賀		
昭53【本科32】	奥野 博 樹	中 嶋 浩 之	出 口 和 博		
	目(重枝) 洋子	昭63【本科42】	池 田 雄 一		
昭53【選科32】	島 中 深	植 村 琢 司	奥 山 康 光		
	昭54【本科33】	山 下 敏 樹	佐々木 孝 明		
	上 田 憲 彦	尾 形 洋 一	平 9【本科51】		
	太 田 桂 二	平 1【本科43】	神 大 輔		
		末 永 聡	平 11【本科52】		
		平 2【本科44】	佐 藤 真 一		
		清野(西山) ふさ子	平 12【本科53】		
		竹 森 和 博	伊 藤 久 美 子		
		平 3【本科45】	高 谷 尚 子		
		垣 花 克 一	平 14【本科54】		
			徳 山 真 由 美		

鯉淵学園版農業体験学習

研修科長 安藤 義道

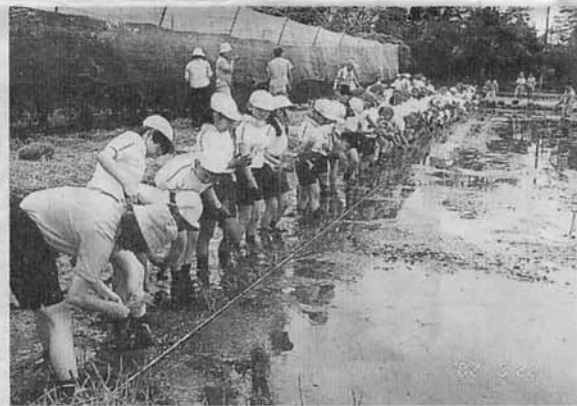
昨年度から農水省の農業体験学習支援条件整備事業による学童の農業体験学習が始まり、今年度は水戸市立堀原小学校の三年生から六年生の全児童が総合的学習時間の一環として農業体験に取り組んでいます。

計画では三年生が「梅もぎとジャム、ジュース作り」、四年生が「田植えと稲の生育調べ、稲刈り、新米の食味」、五年生が「大豆の種蒔きと収穫、豆腐作り」、六年生が「ジャガイモの収穫と加工」の体験を予定、すでに三年生の「梅もぎと

ジャム、ジュース作り」、四年生の「田植え」、五年生の「大豆の種蒔き」が終了しています。担当の指導職員も初めての体験に戸惑いつつも、気分的には気持ちを若返らせて指導に挑んでいます。

「この前僕たちが田植えをしたときはありがたうございました。田んぼに入っですごくおもしろかったです。説明も分かりやすく、うれしいです。それに用意もしてあってテキパキできました。本当にとでも感謝しています」というように、子供たちにはとても好評で、担当教師は

もちろん、付き添いの保護者たちからも大変に喜ばれています。こうした試みを通じて国民への農業理解を深める役割の一端を学園が担い、併せて社会に対して学園への理解を広めていくことの重要性を感じつつ、学園版の「食農教育」はこれからも続きます。



平成十四年度

鯉淵学園人事異動

【依頼退職】

事務部長 児玉 進
助 手 中谷 友美

【採用】

助 手 大森 実和
技師補 菅原 純一
主事補 川上 典子
〃 大久保 美保

自己紹介

この四月からお世話になっていますが、國府田です。前職は常陽銀行に勤務しておりました。出身地は福島県のいわき市小川町というところで、鯉淵周辺と同じく、農業が盛んな地域です。現在の住まいは水戸にあります。銀行では農業関係のお客様は比較的少なかったですが、個人は大変縁がございます。母方、妻の実家共、専業農家ですし、実家は兄が米穀店を営んでいます。また、私の実家の亡伯父は、アメリカ合衆国カリフォル

事務部次長

國府田 敬二郎

ニアで米作りをしておりました。今回鯉淵学園にお世話になったのも、何かの縁と思っております。

これまで、「土」、「水」、「空気」について余り深く考えてこなかったのですが、この地に来て、あらためて、そのありがたさ、偉大さに接しております。人間は余りにも傲慢になってしまったのかもしれない。もっと自然に対して、謙虚さ、共有、共生の気持ちをお大切にしたいと思います。

自然の豊かなこの地で、日本農業の将来を支えていこうとしている活気あふれる若人に対し、自分ができることを精一杯やってみたいと思っております。

「農」と「食」、まだまだ、勉強しなくてはならないことばかりですが、職員の皆さんの温かいご支援で、一日も早く皆様のお役に立てるよう頑張りますので、どうぞよろしくご指導ご鞭撻くださいませう、お願い申し上げます。

支部・同期の動向

第十一回「鯉淵学園・農村研究会友の会」の集い

《秋田県の大潟村にて開催》

去る六月八・九日、一泊二日の日程で秋田県・大潟村の「サンルーラル大潟」に於いて、十四年度鯉淵学園・農村研究会友の会が開催されました。本会（会長 浅田昌男氏）は鯉淵学園の学生時代、十四期生の同志が創設し「農村社会に於ける生産と生活活動の実態や問題点」等を調査研究を行うことを目的として、茨城県内を中心に現地視察を実施し、明日の農村はどうあるべきかを研究討論し合った仲間が今年も集いました。大潟村は琵琶湖に次ぐ大きな湖「八郎潟」を昭和三十三年より干拓し、昭和三十九年大潟村が開村、四十一年入植開始、全国より五八九人が入植し、「日本稲作農業の大規模機械化農業モデル農村」として建設された『新しい村』です。この大潟村の村長が黒瀬喜多さん（旧姓 鞍田 20期・学園長の娘）です。今年の集いの目的は、黒瀬村長に祝福と懇親や激励、大規模稲作農業の実践現況と男鹿半島観光とした。二日は村内の各施設を村長と山本さんの案内で視察致しました。その後、男鹿半島の景観が一望できる「寒風山」より大潟村や秋田市方面を眺望しました。今

年の集いには村長はじめ入植者の同志（高橋忠生氏13期、山本平男氏24期）、新



後列左から 山本平男(24期秋田)、岩淵アイ子(特別参加岩手)、西浦英子(24期兵庫)、深澤弘子(特別参加秋田)、小嶋宏(15期秋田)、遠藤美代子(特別参加宮城)、加藤清子(特別参加岩手)、角山徳郎(特別参加新潟)、角山優子(24期新潟)、湯本チヨ子(特別参加新潟)、湯本昭男(特別参加新潟)、中嶋則子(15期兵庫)、竹中孝子(特別参加兵庫)
 中列左から 遠藤弘司(14期宮城)、増子駿一(14期茨城)、小嶋光子(特別参加秋田)、美馬信子(14期北海道)、金子勝(特別参加新潟)、武藤恒美(14期秋田)、寺角純子(24期茨城)、岩淵齊(15期岩手)
 前列左から 美馬亘(特別参加北海道)、加藤謙次(14期岩手)、大竹勝次(14期栃木)、黒瀬喜多(20期秋田)、西潟範子(14期新潟)、浅田昌男(14期茨城)、高橋忠生(13期秋田)、深澤慶吉(15期秋田)

潟、兵庫、茨城より特別参加者があり、総勢一九人で話題が豊富となり、夜の更けるのも忘れた楽しい一夜を過ごすことができました。翌朝には高橋忠生氏よりお土産として、お米「あきたこまち」、百キロと大潟銘菓パンブキンパイを頂戴した。来年は島根県にて開催することを決めて散会しました。
 なお前日の七日は盛岡市の繋温泉で十四期生会が開催され、引き続き本会に参

加してくれた会員も大勢見受けられました。たことを追記し報告と致します。
 (14期、秋田 武藤恒美)

十二期生会

新緑の佐渡で開催

十二期生会を六月九日・十日新緑の佐渡で開催した。卒園から十年位迄は、茨城から東京で開催したが、熟年になった頃から夫婦同伴で参加できるよう観光も兼ねて各県持ち回りで実施している。今回は新潟県の佐渡で開催した。幸い天候に恵まれ、日本海に浮かぶ佐渡ヶ島の海と新緑を満喫した。

参加者は三二名（うち同伴七名・孫一名）が参加した。第一日目はこの会を設営した高橋清君の司会で、学園と同窓会の近況を報告した後、二年振りに再会した友と夜のふけるのを忘れて懇談した。
 二日目は佐渡出身（現在は茨城）の若林均君の協力を得て佐渡金山、ときの森公園など島めぐりを楽しんだ。次回は二年後宮崎で実施することを決めた。
 多数の参加を期待します。（本宮）

鯉淵学園第12期生同窓会



十四期岩手路会盛会に開催

十四期卒業生は、みちのく岩手の地で三二名（夫婦四組）と新潟県から特別参加者五名（22期卒 角山優子さん外四名）の総勢三六名の参加を得て、盛岡市で六月七日（金）〜八日（土）の二日間、好天にも恵まれ十四期岩手路会は盛会裏に開催された。

一日目は、卒業してから四十二年振りに会い、学生時代の面影と名前が一致しない中で杯を交しながら思い出に花を咲かせている内に、顔と名前が一致して互いに元気で再会出来たことを喜ぶ光景があらこちらで見受けられた。

三時間にわたる思い出を語る共同研究会が盛り上がる中での中締めとなり、最後に伴奏付きで寮歌を全員で斉唱して散会した。

二日目は、会場（つなき温泉「ホテル大観」）近くにある観光施設（盛岡手づくり村・小岩井農場内にある小岩井乳業と県産木工展示館とんぐりコロコロ）を見学して、盛岡駅前で盛岡名物のわんこそば大会を行い、多く食べた人に大食賞（男・女各三名）が授与されるなど大いに盛り上がった。

最後に次回（平成十六年）は長野県で開催することになり、太田・栗林両君から決意表明があり、再会を約し閉会した。

その後は、無形民俗文化財であるみちのくの初夏を彩る風物詩として全国的に有名な装束で着飾った九五頭のチャゲチャゲ馬のパレードを自由見学して三三五帰途に着く。

今回、参加出来なかった方も、次回開催地の長野県に参加していただくことを、ご期待申し上げます。幹事岩手からのご報告といたします。

文責 加藤 謙次

鯉淵学園14期岩手路会



参加者一同写真と14期生名（順不同）

〈北海道〉美馬（小関）信子 〈青森県〉古川（鶴田）兼一 〈秋田県〉武藤恒美・西田貞夫 〈山形県〉黒田（佐藤）勝利 〈宮城県〉朽木直文
 〈茨城県〉益子駿一・高坂明夫・松本定雄 〈栃木県〉大竹勝次 〈群馬県〉石田キヨ子 〈長野県〉太田光保・平林秀夫・栗林郁人
 〈静岡県〉平石五雄・原崎充弘 〈新潟県〉西潟（渡辺）範子 〈石川県〉斉田毅 〈福井県〉鯉嶋庄栄 〈広島県〉立石雅哉・柄崎紀雄・森本勝士
 〈岩手県〉芳賀正美・高橋（漆沢）貞雄・畠山つよみ・岩淵（小野寺）みき・加藤謙次

同窓会会費納入について

(お願い)

会長 高橋 隆三

拝啓 若鮎おどる季節、卒業生の皆様におかれましてはご健勝にてお過ごしのことと存じます。日頃から同窓会活動につきましては、格別なるご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

同窓会活動も14・15年度に入り、第二十五回同窓会大会の事業方針に基づき活

千葉県支部常任委員 選出について

千葉県選出の常任委員につきましては、加藤成一常任委員が国際協力事業団派遣農業専門家として海外勤務されることになり、後任に10期の杉本守城さんが選任されましたが、体調等の理由で常任委員を辞退された経過があります。その後空席のままでしたが、昨年来剣持義虎県支部長に後任者の推薦をお願いしてきまして、三月末、19期の下部泰郎氏を推薦され、去る六月十四日開催の常任委員会で選出されました。当日は常任委員・監事合同の分収林現地視察の日でもありましたが、下部氏は県農林水産部林務課勤務の林業関係の専門家です。常任委員として、支部組織、分収林等、今後の活動に期待しているところでです。
(事務局)

平成12・13年度末支部別会費納入状況

支部名	会員数	納入者数		既納者数	合計	納入率(%)	13年度卒業 者数(55期)
		年度	終身				
北海道	261	29	7	38	74	28.4%	3
青森県	64	1	2	10	13	20.3%	1
岩手県	184	18	2	37	57	31.0%	3
宮城県	89	12	2	20	34	38.2%	5
秋田県	105	5	4	27	36	34.3%	2
山形県	210	9	5	20	34	16.2%	3
福島県	250	10	6	25	41	16.4%	-
小計	1,163	84	28	177	289	24.8%	17
茨城県	884	31	13	175	219	24.8%	13
栃木県	230	11	11	48	70	30.4%	1
群馬県	123	4	10	23	37	30.1%	1
埼玉県	184	15	13	37	65	35.3%	4
千葉県	190	9	0	46	55	28.9%	8
東京都	122	6	3	29	38	31.1%	1
神奈川県	105	5	4	27	36	34.3%	2
小計	1,838	81	54	385	520	28.3%	30
新潟県	284	15	7	57	79	27.8%	3
富山県	103	6	3	16	25	24.3%	2
石川県	58	2	0	16	18	31.0%	2
福井県	178	8	3	23	34	19.1%	2
小計	623	31	13	112	156	25.0%	9
山梨県	32	1	0	8	9	28.1%	-
長野県	296	15	5	58	78	26.4%	1
岐阜県	52	5	1	13	19	36.5%	-
静岡県	100	3	2	18	23	23.0%	1
愛知県	96	4	6	25	35	36.5%	-
小計	576	28	14	122	164	28.5%	2
三重県	46	0	3	10	13	28.3%	-
滋賀県	58	0	2	9	11	19.0%	1
京都府	97	10	7	23	40	41.2%	2
大阪府	59	6	0	11	17	28.8%	1
兵庫県	135	41	4	14	59	43.7%	4
奈良県	15	0	0	7	7	46.7%	-
和歌山県	39	0	0	6	6	15.4%	-
小計	449	57	16	80	153	34.1%	8
鳥取県	63	0	0	10	10	15.9%	-
島根県	166	6	2	19	27	16.3%	3
岡山県	75	2	1	12	15	20.0%	1
広島県	106	5	1	19	25	23.6%	2
山口県	84	11	1	28	40	47.6%	-
小計	494	24	5	88	117	23.7%	6

動を開始しております。去る五月十八日、常任委員・監事合同の分収林視察を行いました。鯉淵学園からは学園長代理として、川井光学生部長、農セミの学生四名も参加され、小雨降る中では在りましたが無事終えることができました。

同窓会の具体的な活動に入りますと常に財政問題が生じて参ります。別表の支部別・卒期別納入状況表をみましても、二六%の納入で、このままだと今後の活動に支障をきたす状況で在ります。

誠に恐縮とは存じますが会費未納の方はご納入下さいますようお願い申し上げます。
敬具

記

一、年度会費 一、五〇〇円

なお振込用紙の通信欄に卒期も明記して頂きたく、お願い申し上げます。

二、終身会費納入区分表

終身会費納入区分表

卒業後経過年数	金額(円)
1～5年	40,000
6～10年	37,500
11～15年	35,000
16～20年	32,500
21～25年	30,000
26～30年	27,500
31～35年	25,000
36～	22,500

※ なお、振込用紙は、全会員に同封しております。事務上やむをえない状況ですので、御理解下さい。



支部名	会員数	納入者数		既納者数	合計	納入率 (%)	13年度卒業者数(55期)
		年度	終身				
徳島県	27	1	0	6	7	25.9%	—
香川県	31	2	0	8	10	32.3%	—
愛媛県	53	1	3	10	14	26.4%	2
高知県	39	0	0	6	6	15.4%	1
小計	150	4	3	30	37	24.7%	3
福岡県	49	3	5	6	14	28.6%	1
佐賀県	70	1	0	13	14	20.0%	2
長崎県	51	4	1	7	12	23.5%	—
熊本県	85	4	1	20	25	29.4%	3
大分県	45	4	1	7	12	26.7%	—
宮崎県	122	1	5	21	27	22.1%	3
鹿児島県	133	3	4	25	32	24.1%	5
沖縄県	145	3	3	19	25	17.2%	4
小計	700	23	20	118	161	23.0%	18
海外	1	0	1	1	2	—	—
合計	5,994	332	154	1,113	1,599	26.7%	93

平成12・13年度卒業期別会費納入状況

卒業期	会員数	納入者数		既納者数	合計	納入率 (%)	卒業期	会員数	納入者数		既納者数	合計	納入率 (%)
		年度	終身						年度	終身			
1	63	3	2	24	29	46.0%	33	125	5	0	11	16	12.8%
2	104	14	0	54	68	65.4%	34	116	4	0	11	15	12.9%
3	112	9	4	48	61	54.5%	35	114	0	0	7	7	6.1%
4	98	17	0	54	71	72.4%	36	117	6	1	6	13	11.1%
5	67	13	1	39	53	79.1%	37	91	1	0	4	5	5.5%
6	32	0	1	22	23	71.9%	38	82	1	0	2	12	14.6%
7	73	10	2	47	59	80.8%	39	79	0	0	1	1	1.3%
8	81	6	3	33	42	51.9%	40	66	1	0	3	4	6.1%
9	112	9	3	51	63	56.3%	小計	988	28	3	64	112	11.3%
10	105	7	0	35	42	40.0%	41	67	2	0	2	4	6.0%
小計	847	88	16	407	511	60.3%	42	54	1	0	0	1	1.9%
11	77	4	0	38	42	54.5%	43	95	1	1	8	10	10.5%
12	58	2	0	23	25	43.1%	44	93	5	1	6	12	12.9%
13	88	1	4	30	35	39.8%	45	99	1	0	3	4	4.0%
14	89	4	3	28	35	39.3%	46	73	1	0	3	4	5.5%
15	87	6	2	33	41	47.1%	47	62	1	0	3	4	6.5%
16	70	5	1	22	28	40.0%	48	71	1	1	2	4	5.6%
17	65	6	8	16	30	46.2%	49	81	6	1	3	10	12.3%
18	54	3	3	19	25	46.3%	50	96	2	1	1	4	4.2%
19	92	6	4	30	40	43.5%	小計	791	21	5	31	57	7.2%
20	86	6	5	24	35	40.7%	計	4,557	250	77	1,032	1,376	30.2%
小計	766	43	30	263	336	43.9%	51	127	2	0	1	3	2.4%
21	86	2	3	23	28	32.6%	52	96	4	0	0	4	4.2%
22	127	4	3	24	31	24.4%	53	121	14	29	0	43	35.5%
23	155	10	0	51	61	39.4%	54	113	4	42	0	46	40.7%
24	145	9	6	37	52	35.9%	小計	457	24	71	1	96	21.0%
25	159	14	3	34	51	32.1%	通1	178	9	3	18	30	16.9%
26	134	6	5	27	38	28.4%	通2	220	10	0	16	26	11.8%
27	108	14	0	23	37	34.3%	通3	267	18	0	21	39	14.6%
28	85	6	2	13	21	24.7%	通4	190	8	1	20	29	15.3%
29	80	2	0	18	20	25.0%	通5	113	11	1	5	17	15.0%
30	86	3	1	17	21	24.4%	小計	968	56	5	80	141	14.6%
小計	1,165	70	23	267	360	30.9%	賛助	12	2	1	0	3	25.0%
31	89	3	0	11	14	15.7%	計	1,437	82	77	81	240	16.7%
32	109	7	2	8	25	22.9%	合計	5,994	332	154	1,113	1,599	26.7%